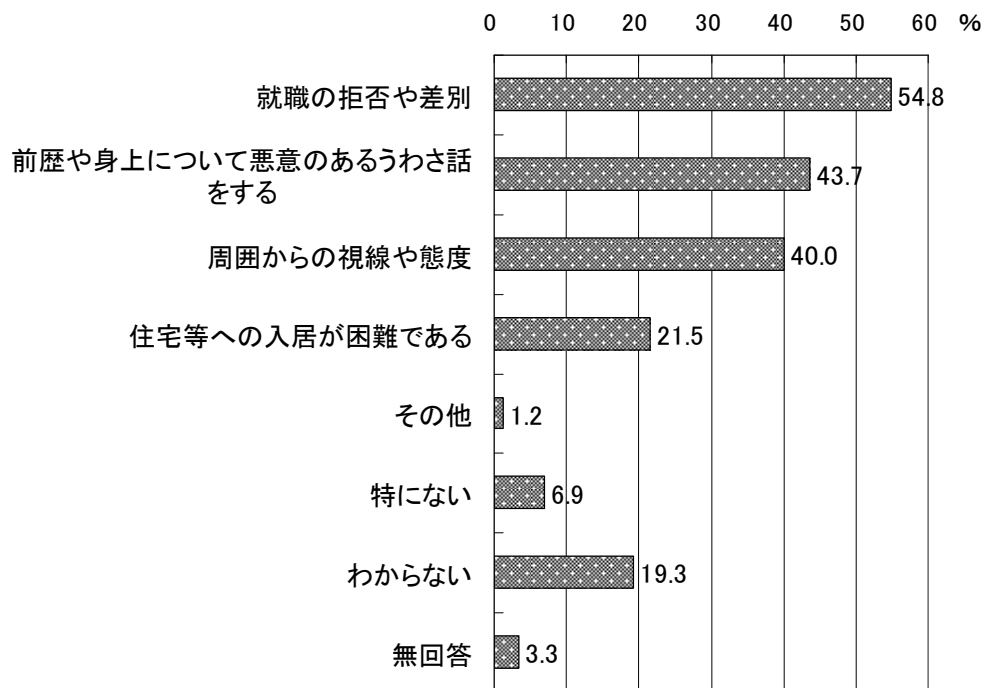


10. 刑を終えた人に関する人権について

問 27. 刑を終えた人に関する人権について特に問題があると思われること

刑を終えた人に関する人権について特に問題があると思われることについては、「就職の拒否や差別」が 54.8%で最も多く、次いで「前歴や身上について悪意のあるうわさ話をする」が 43.7%、「周囲からの視線や態度」が 40.0%などとなっている。

図 27-1 刑を終えた人に関する人権について特に問題があると思われること
(N=918、複数回答3)



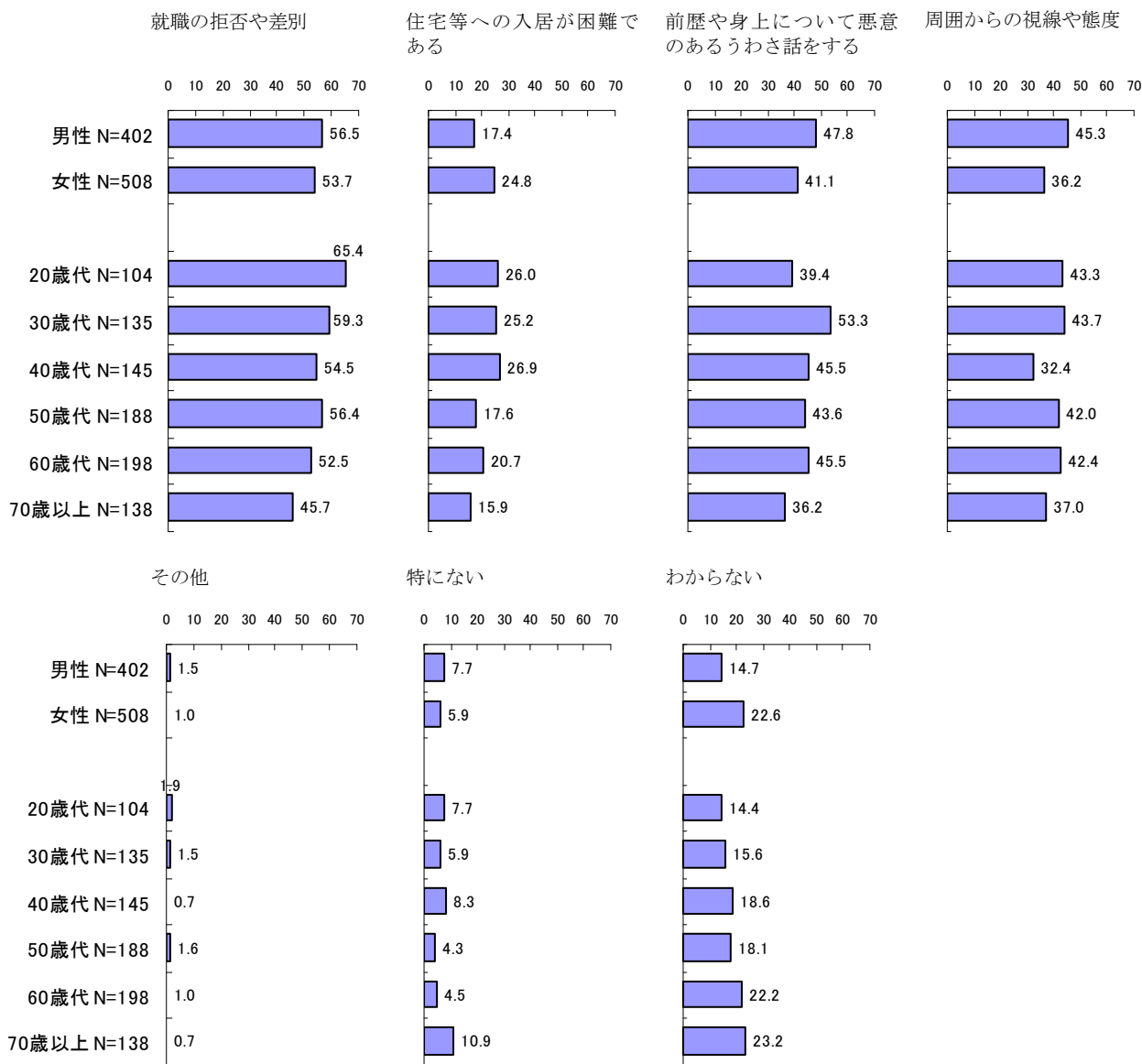
【性別】

性別にみると、「前歴や身上について悪意のあるうわさ話をする」及び「周囲からの視線や態度」の割合は、男性の方が女性と比べて高い。「住宅等への入居が困難である」の割合は、女性の方が男性よりも7ポイント高い。

【年代別】

年代別にみると、「就職の拒否や差別」の割合は、どの層でも高く、特に20歳代以上で60%を超えて高い。30～60歳代では「前歴や身上について悪意のあるうわさ話をする」の割合は30歳代で他と比べて高い。

図 27-2 刑を終えた人に関する人権について特に問題があると思われること 単位：%



【職業別】

職業別にみると、「就職の拒否や差別」の割合は、特に学生、公務員、会社員・団体職員で60%程度で他と比べて高い。「前歴や身上について悪意のあるうわさ話をする」の割合は、農林水産業、公務員、会社員・団体職員で60%程度で他と比べて高い。「周囲からの視線や態度」の割合は、農林水産業で48.6%で他と比べて高い。

図 27-3 刑を終えた人に関する人権について特に問題があると思われること

単位：％

	N	就職の拒否や差別	住宅等への入居が困難である	前歴や身上について悪意のあるうわさ話をする	周囲からの視線や態度	その他	特にない	わからない	無回答
総数	918	54.8	21.5	43.7	40.0	1.2	6.9	19.3	3.3
農林水産業	37	45.9	16.2	51.4	48.6	-	2.7	10.8	10.8
自営業	89	52.8	13.5	43.8	39.3	1.1	13.5	12.4	7.9
公務員	49	61.2	20.4	51.0	42.9	2.0	10.2	10.2	2.0
会社員・団体職員	241	59.3	21.6	49.8	40.2	1.7	6.6	18.3	0.4
学生	23	65.2	21.7	34.8	47.8	-	8.7	17.4	-
パート・アルバイト	75	57.3	30.7	44.0	37.3	1.3	2.7	21.3	-
主婦・家事手伝い	151	54.3	26.5	41.1	39.1	1.3	4.0	23.8	3.3
無職	139	53.2	19.4	46.0	41.0	0.7	7.2	21.6	1.4
その他	70	42.9	22.9	31.4	32.9	1.4	7.1	24.3	5.7

【家族構成別】

家族構成別にみると、「前歴や身上について悪意のあるうわさ話をする」の割合は、夫婦と親、3世代で50%を超えて他と比べて高い。「周囲からの視線や態度」の割合は、特に夫婦のみの世帯で45.7%で他と比べて高い。

図 27-4 刑を終えた人に関する人権について特に問題があると思われること

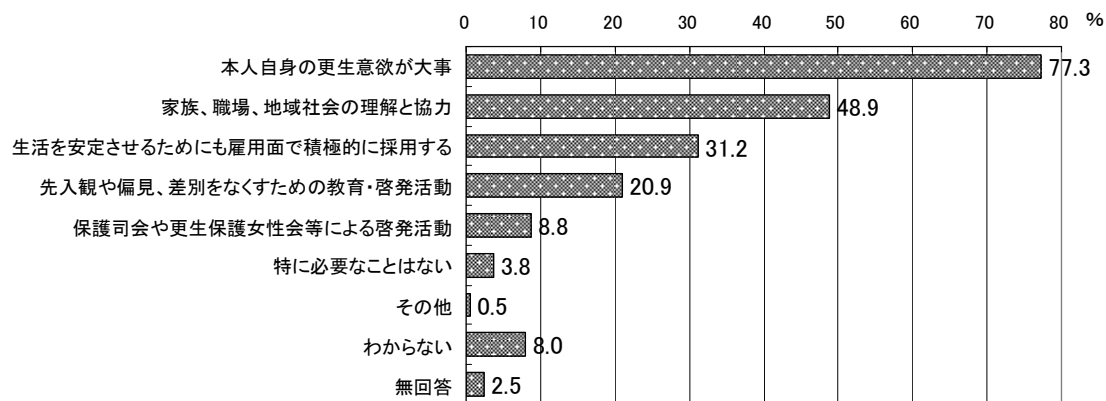
単位：％

	N	就職の拒否や差別	住宅等への入居が困難である	前歴や身上について悪意のあるうわさ話をする	周囲からの視線や態度	その他	特にない	わからない	無回答
総数	918	54.8	21.5	43.7	40.0	1.2	6.9	19.3	3.3
単身	73	53.4	19.2	34.2	41.1	-	5.5	16.4	5.5
夫婦のみ	175	54.9	20.0	40.6	45.7	-	6.9	21.1	4.0
夫婦と子	371	56.3	21.6	44.2	38.8	1.6	6.5	20.5	2.4
夫婦と親	39	56.4	28.2	53.8	43.6	-	7.7	12.8	5.1
3世代	133	55.6	20.3	50.4	42.9	1.5	6.8	15.0	2.3
一人親と子	66	48.5	18.2	42.4	39.4	1.5	7.6	21.2	3.0
その他	54	51.9	31.5	46.3	22.2	3.7	7.4	18.5	3.7

問 28. 刑を終えた人の人権を守るために特に必要なこと

刑を終えた人の人権を守るために特に必要なことについては、「本人自身の更生意欲が大事」が77.3%で最も多く、次いで「家族、職場、地域社会の理解と協力」が48.9%、「生活を安定させるためにも雇用面で積極的に採用する」が31.2%などとなっている。

図 28-1 刑を終えた人の人権を守るために特に必要なこと (N=918、複数回答3)



【性別】

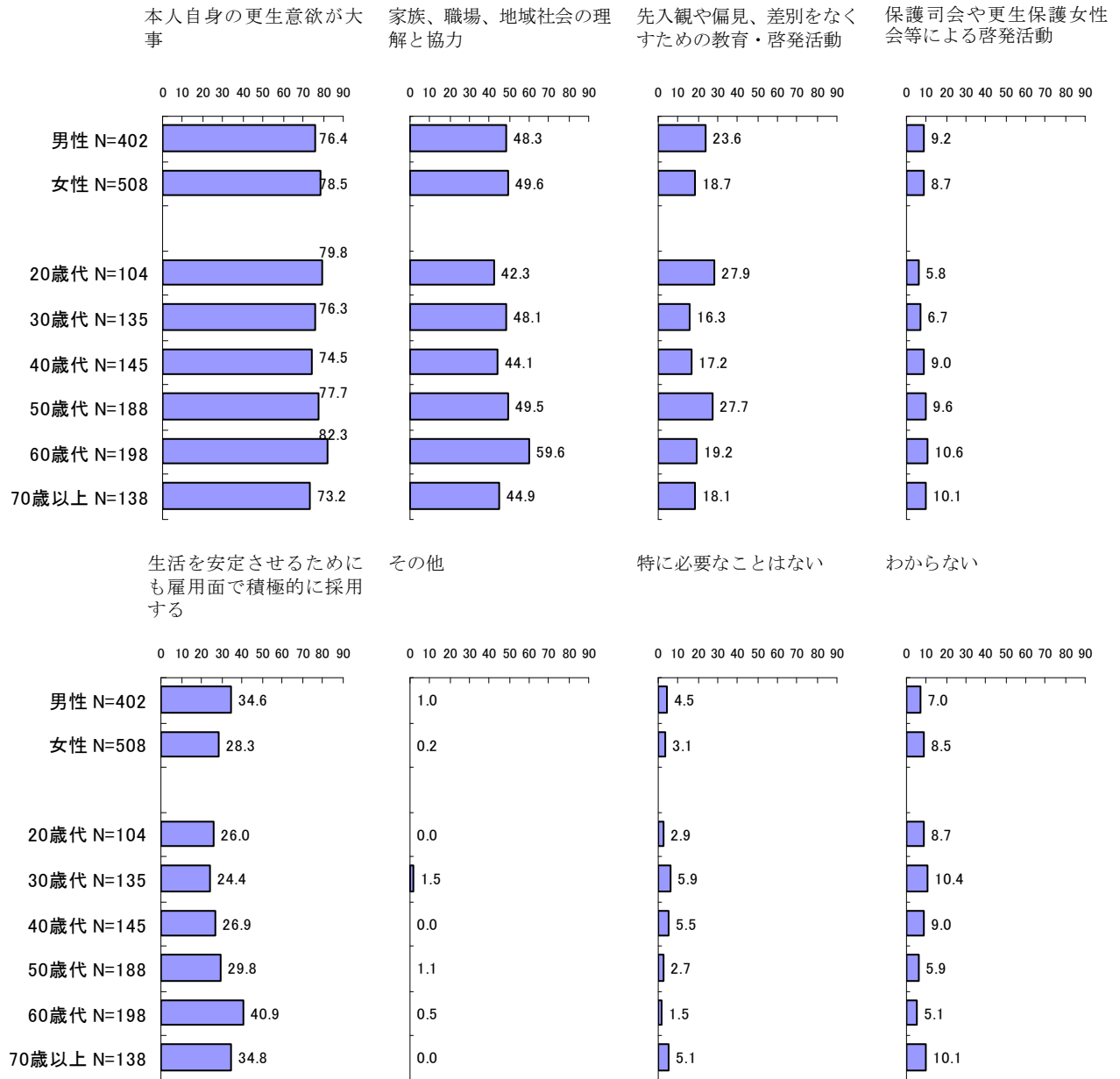
性別にみると、大差はない。

【年代別】

年代別にみると、「家族、職場、地域社会の理解と協力」の割合は、60歳代で59.6%で他と比べて高い。60歳代では、「生活を安定させるためにも雇用面で積極的に採用する」の割合は40.9%で他と比べて高い。20歳代及び50歳代では「先入観や偏見・差別をなくすための教育・啓発活動」の割合が27.9%、27.7%で他と比べて高い。

図 28-2 刑を終えた人の人権を守るために特に必要なこと

単位：%



【職業別】

職業別にみると、パート・アルバイト、公務員、学生では、「先入観や偏見・差別をなくすための教育・啓発活動」の割合が他と比べて高い。無職では、「生活を安定させるためにも雇用面で積極的に採用する」の割合が37.4%で他と比べて高い。

図 28-3 刑を終えた人の人権を守るために特に必要なこと

単位：%

	N	本人自身の更生意欲が大事	家族、職場、地域社会の理解と協力	先入観や偏見、差別をなくすための教育・啓発活動	保護司会や更生保護女性会等による啓発活動	生活を安定させるためにも雇用面で積極的に採用する	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
総数	918	77.3	48.9	20.9	8.8	31.2	0.5	3.8	8.0	2.5
農林水産業	37	83.8	51.4	18.9	13.5	32.4	-	-	-	5.4
自営業	89	76.4	47.2	13.5	9.0	31.5	-	6.7	5.6	3.4
公務員	49	77.6	53.1	26.5	2.0	28.6	-	4.1	6.1	2.0
会社員・団体職員	241	78.0	48.1	19.1	9.5	32.8	0.8	3.7	9.1	0.4
学生	23	87.0	34.8	26.1	-	26.1	-	4.3	8.7	-
パート・アルバイト	75	80.0	54.7	28.0	10.7	24.0	-	2.7	8.0	1.3
主婦・家事手伝い	151	78.8	53.0	21.9	7.9	29.1	0.7	0.7	8.6	2.6
無職	139	74.1	47.5	23.0	12.2	37.4	0.7	5.8	6.5	2.2
その他	70	78.6	48.6	21.4	4.3	27.1	-	7.1	8.6	2.9

【家族構成別】

家族構成別にみると、「本人自身の更生意欲が大事」の割合は、単身を除いて75~80%で高い。夫婦と親では、「保護司会や更生保護女性会等による啓発活動」の割合が17.9%で他と比べて高い。

図 28-4 刑を終えた人の人権を守るために特に必要なこと

単位：%

	N	本人自身の更生意欲が大事	家族、職場、地域社会の理解と協力	先入観や偏見、差別をなくすための教育・啓発活動	保護司会や更生保護女性会等による啓発活動	生活を安定させるためにも雇用面で積極的に採用する	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
総数	918	77.3	48.9	20.9	8.8	31.2	0.5	3.8	8.0	2.5
単身	73	63.0	49.3	17.8	6.8	26.0	1.4	5.5	11.0	6.8
夫婦のみ	175	80.0	52.6	19.4	12.6	36.6	-	3.4	4.6	2.3
夫婦と子	371	78.2	44.7	22.9	7.3	31.3	0.5	3.0	9.2	1.6
夫婦と親	39	79.5	53.8	17.9	17.9	35.9	-	2.6	7.7	5.1
3世代	133	80.5	55.6	21.8	9.0	25.6	0.8	3.8	6.0	2.3
一人親と子	66	74.2	45.5	18.2	6.1	33.3	-	6.1	9.1	1.5
その他	54	79.6	50.0	20.4	7.4	27.8	1.9	5.6	7.4	1.9